

HUMAN RIGHTS

人権総合学習「ひとまちっく箕面新都心」

～わたしたちの夢をまちづくりに～

かやの
箕面市立萱野小学校

●新しいまちができる

箕面市南部の国道171号線と423号線(新御堂筋)が交差する萱野地域。2003年10月、私たちの萱野小学校のすぐ隣に新しいまち「箕面新都心」がオープンします。2001年度の5年生だった子どもたちの目の前で、池や田んぼだったところに、新しい道ができ、河川が付け替えられるなど、次々と景色が変わっていきました。

本校では、「地域との出会い」をテーマに人権総合学習を積み重ねています。この子どもたちも4年生まで地域のさまざまな人と出会い、今や昔を調べ、そしてそれをたくさんの人に伝える活動を続けていました。5年生の時、校区に住む新都心整備課の人と出会いました。「新しくできるまちを、みんなにやさしくみんなが得するまちにしたい」「池や川はできるだけ自然が守られたものにしたい」そんな思いに触れ、子どもたちも「新しくできるまちに自分たちの夢も実現できないだろうか」という気持ちを持ち、「ひとまちっく箕面新都心」に発展していきました。

●保護者・地域とともに

自分たちの住んでいる地域が大きく変わるということには、保護者や地域のみなさんの関心が高く、保護者対象のワークショップや工事中の新都心へのフィールドワークを呼びかけたところ、多数の参加がありました。保護者のみなさんに、建設中の新都心も含めた校区の場所当てクイズをつくってもらい、子どもたちや他の保護者とともに、参観日に楽しんで学習がスタートしました。その後も聞き取りや調査活動、創作活動に、保護者や地域の方がともに加わって、活動をつくっていきました。

●プロジェクトで力を発揮

子どもたちは「新都心の道や池や川はこうあってほしい」「広場でこんなことができればいいな」など、アイデア集をまとめました。それに対する「今からできること」「すでに決まっていてできないこと」などの回答をもらい、できることの中からテーマをしばり、3つのプロジェクト(以下PJ)を立ち上げました。

「つくろうPJ」は水辺や公園が自然を保ち、魚や鳥が憩う場所になってほしいという願いから、それを呼びかける看板や、池で鳥が休憩できる浮島をつくりました。女性でバリアフリーをテーマに活躍されている大工さんに出会ったり、野鳥の会の方に鳥の習性を教えてもらったり、校区の工務店に頼んで廃材を寄付してもらったり、とたくさんの人の協力で



河川での学習

看板と浮島が完成しました。

「調べようPJ」は、生物や水質環境に関心をもった子どもたちと、バリアフリーやNPO活動に関心をもった子どもたちがそれぞれチームをつくり、周辺の生態系や水質について調査したことや、ハンディをもつ人・市民活動をしている人の新都心への願いをまとめ、提言書という形で市長さんに届けました。

「広めよう・伝えようPJ」は箕面新都心のコンセプトや動きの紹介と、自分たちの総合学習の様子をポスター・テレビ番組・新聞・ホームページで発信しました。

放課後も他のPJの活動をビデオで追って番組づくりにがんばった子、知り合いのハンディのある人に声をかけ市役所の担当者といっしょに工事中の新都心フィールドワークを実現した子、みんなに呼びかけて川の清掃をした子など、ふだん見られない力を発揮する子どもたちの姿が印象的でした。

●もとめ、伝えあい、つながりながら

子どもたちは、まちびらきを前にこの春卒業していきました。けれど、この活動がその後につながり、昨年度は4年生が人権総合学習の1テーマに取り上げたほか、環境クラブの子どもたちが毎年2回自然観察や清掃活動を行っています。

さらに今年7月には、PTAといっしょに「ウォッチング箕面新都心」をスタートさせました。これは期間限定で情報収集・発信や見学会を行うものです。(詳しくは萱野小学校ホームページ)

<http://www.city.minoh.osaka.jp/kayano-ele/home.html>

箕面新都心のまちびらきをひとつのきっかけに、自分たちの地域や暮らしをより良くしたいと願う人たちとつながって、これからも人権総合学習を発展させていきたいと思っています。